

**2025年度
(令和7年度)**

紋別市における景気動向調査

＜第4四半期＞

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間	1
2. 調査対象	1
3. 回収状況	1

II. 概 況

1. 全体の動き	2
(1) 今期の業況	2
(2) 部会別の動向	3
2. 今期の動向	
(1) 今期の売上高・生産高	6
(2) 今期の採算	7
(3) 今期の資金繰り	8
(4) 今期の在庫水準	9
(5) 今期の借入金の金利水準	10
(6) 設備投資の実施状況	10
3. 来期の見通し	
(1) 来期の業況見通し	11
(2) 来期の売上高・生産高見通し	11
(3) 来期の資金繰り見通し	12

III. 各 指 標

1. 各指標	12
--------------	----

IV. 中東情勢変化による経済活動への影響

1. 調査結果	13
---------------	----

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 2026 年 4 月 30 日
(2) 調査対象期間 2026 年 1 月～3 月期の実績および 2026 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	13 社	43.3%
水産業部会	30 社	15 社	50.0%
機械工業部会	30 社	12 社	40.0%
建設業部会	30 社	27 社	90.0%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	15 社	50.0%
合 計	150 社	82 社	54.6%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－前年同期から若干の回復。次期も若干回復の見通し－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期（2026（令和8）年1月～3月）の全業種平均DI値**（「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差）は、**▲24.4**となり、前年同期（R7.1～3月▲27.9）と比べると、**3.5ポイント回復**となりました。

各部会における前年同期との比較は以下の通りです。

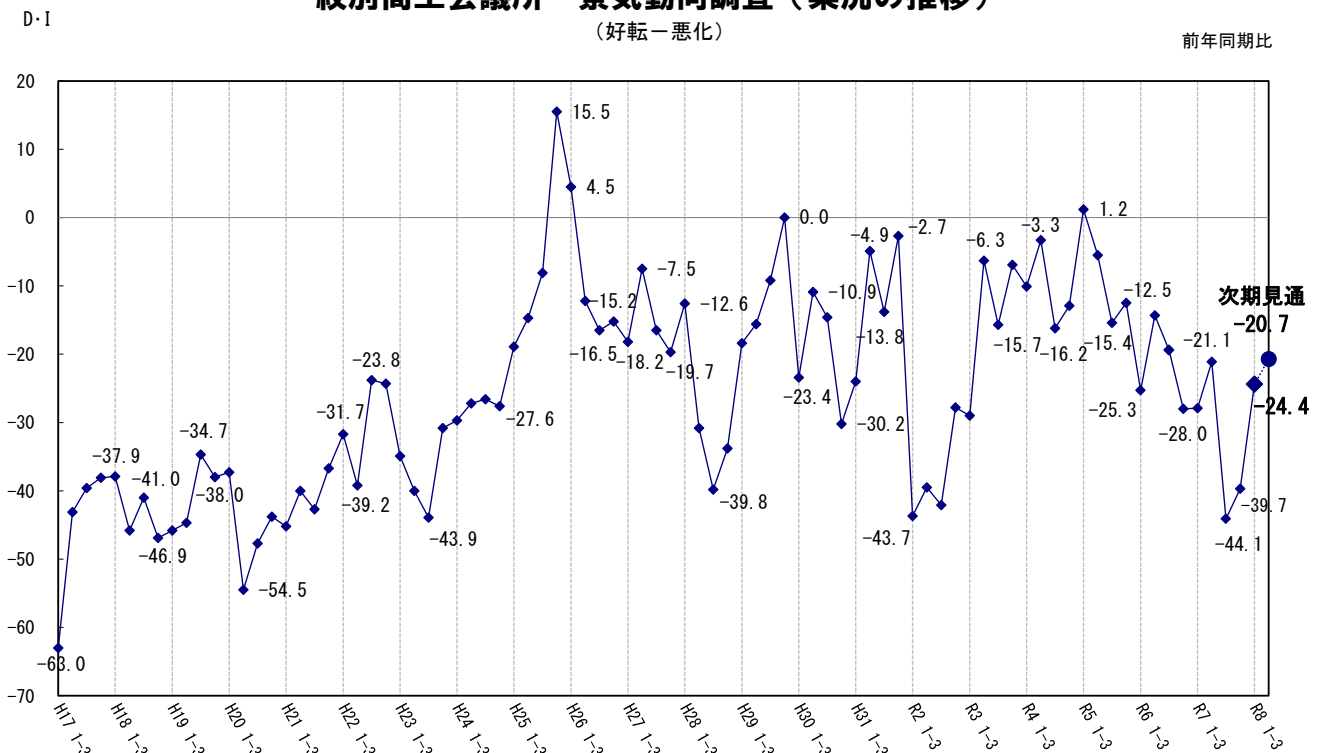
	前年同期 (R7.1～3月)	今期 (R8.1～3月)	増減幅
商業＋食品業部会	▲35.7	▲23.1	12.6（回復）
水産業部会	▲18.8	▲66.7	▲47.9（悪化）
機械工業部会	▲33.4	▲33.3	0.1（回復）
建設業部会	▲19.1	▲18.5	0.6（回復）
観光・サービス＋諸業部会業	▲35.0	13.3	48.3（回復）

今回の調査では、前年同期と比べると、水産業は**大幅な「悪化」**、商業＋食品業部会は**「回復」**、観光・サービス業＋諸業部会は**大幅な「回復」**となりました。水産業では、多くの事業所が問題点として挙げているのが、「原材料価格の上昇・確保難」、「人件費を含む経費の増加」で、業況の悪化につながっています。観光・サービス＋諸業部会業では諸業部会の事業所で「回復」と回答している事業所が多く、高いポイントとなっています。

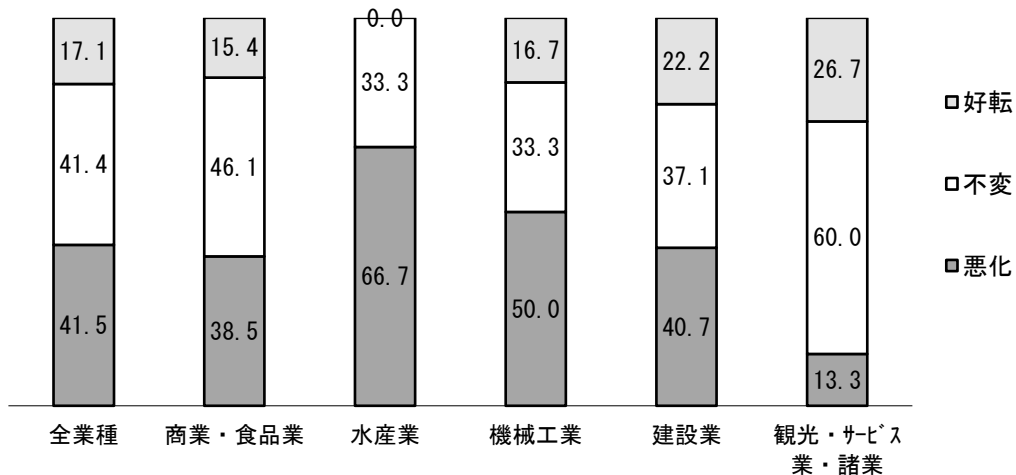
全業種の経営上の問題点として、「**原材料・材料・仕入単価の上昇**」、「**従業員の確保難**」を訴える声がとても多くなっています。全業種で材料単価・仕入単価等のコスト上昇の影響が、業況の停滞につながっていると考えられます。

次期（2025年4月～6月）の見通しについては、**業況判断DIが▲20.7と今期より若干回復する見通し**となっています。

紋別商工会議所 景気動向調査（業況の推移）



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

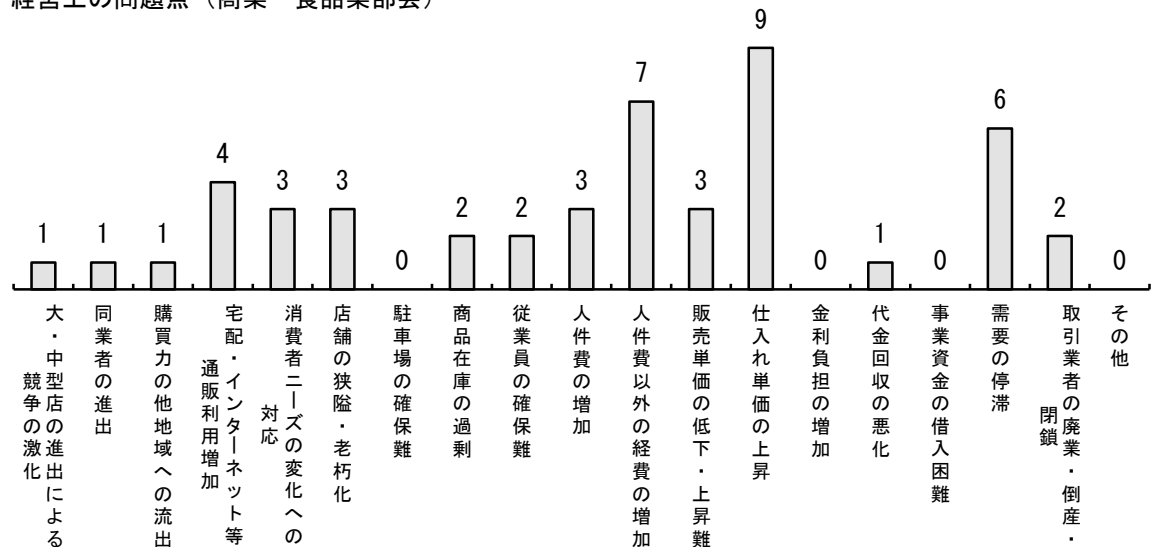
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲23.1（前年DI値▲35.7、来期見通し▲20.7）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期と比べて12.6ポイント回復しました。食品業を営む事業所では「好転」を示す回答が比較的多く見られた一方、商業を営む事業所では「悪化」を示す回答が多くなっています。特に、物価高騰による消費の停滞と仕入単価の上昇が重なり、業況に大きな影響を及ぼしているものと考えられます。次期の見通しについては、DI値が▲20.7とやや回復する見込みですが、依然として大幅な業況改善が見込まれる状況には至っていません。経営上の問題点としては、前述の項目に加え、「人件費以外の経費の増加」を挙げる声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・包装資材を含む仕入単価の上昇、輸送費や物流コスト上昇、物価高があり、今後の見通しが立てられない。（食料品製造業）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

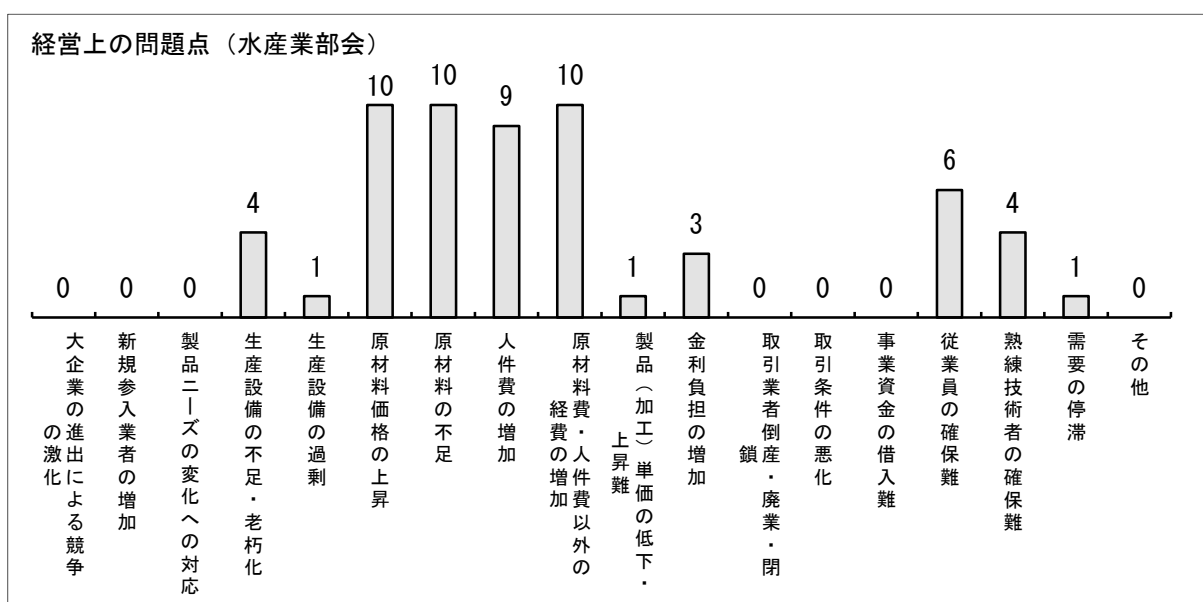


【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲66.7（前年 DI 値▲18.8、来期見通し▲40.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、47.9 ポイントの大幅な悪化となりました。原材料不足や原材料価格の高騰に加え、人件費を含む経費の増加が業況を押し下げる要因となっています。また、海水温の上昇により漁獲される魚種の変化を指摘する声も聞かれ、先行きが不透明な中で事業環境の変化への対応を迫られている状況がうかがえます。次期の見通しについては、DI 値が▲40.0 と、漁期の本格化を迎える時期であるものの、大幅な回復は見込まれていません。経営上の課題としては、前述に加え、「従業員の確保難」を挙げる声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・物価高騰により、消費者の財布の紐がきつくかたい今、贅沢品の海鮮類はなかなか売れない現状がある。（水産加工）
- ・海水温上昇による捕獲魚種の変化に対し、臨機応変な対応が急務と思われる。（水産加工）

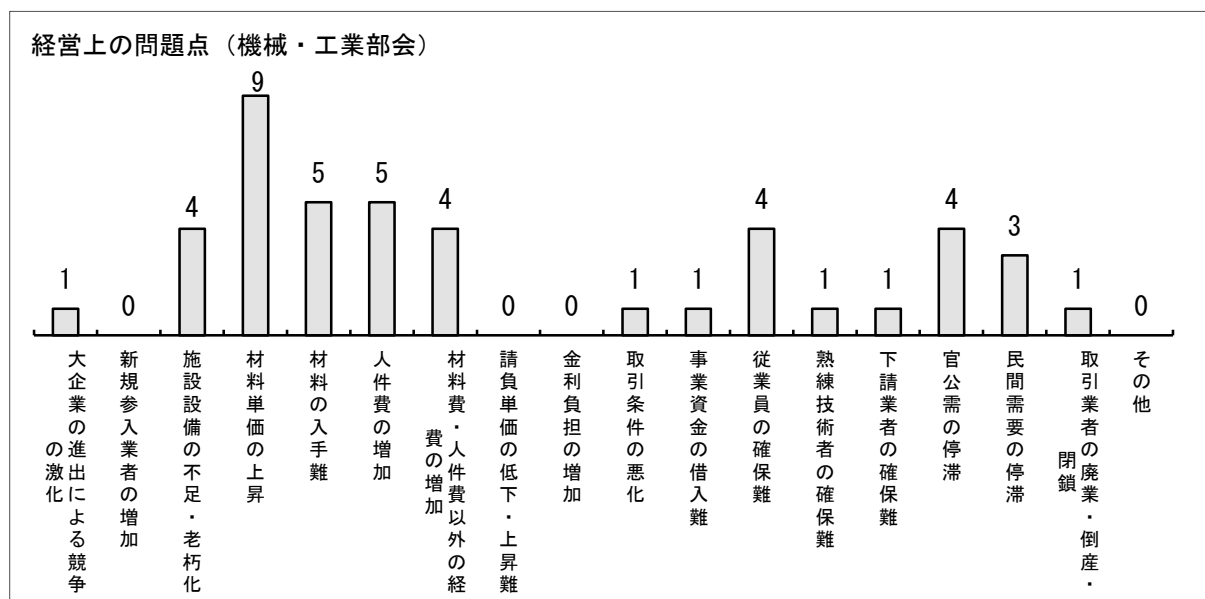


【機械工業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲33.3（前年 DI 値▲33.4、来期見通し▲33.3）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、0.1 ポイントの回復となり、前年同期とほぼ同程度で推移しました。多くの回答企業が「材料単価の上昇」を経営上の問題点として挙げており、業況悪化の主な要因となっています。また、前回調査までは比較的少なかった「材料の入手難」を挙げる事業所が増加しており、国際情勢の変化や供給環境の不安定化による影響も懸念されます。次期の業況見通しは DI 値▲33.3 と、引き続き同程度の水準で推移する見込みです。経営上の問題点としては、前述の項目に加え、「人件費の増加」を挙げる声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・材料の本材、副資材等に原油が使用されている。この度の中東情勢の変化により、大手事業者の買占めが起こり、小規模事業者に影響を及ぼしている。（畳製造販売）

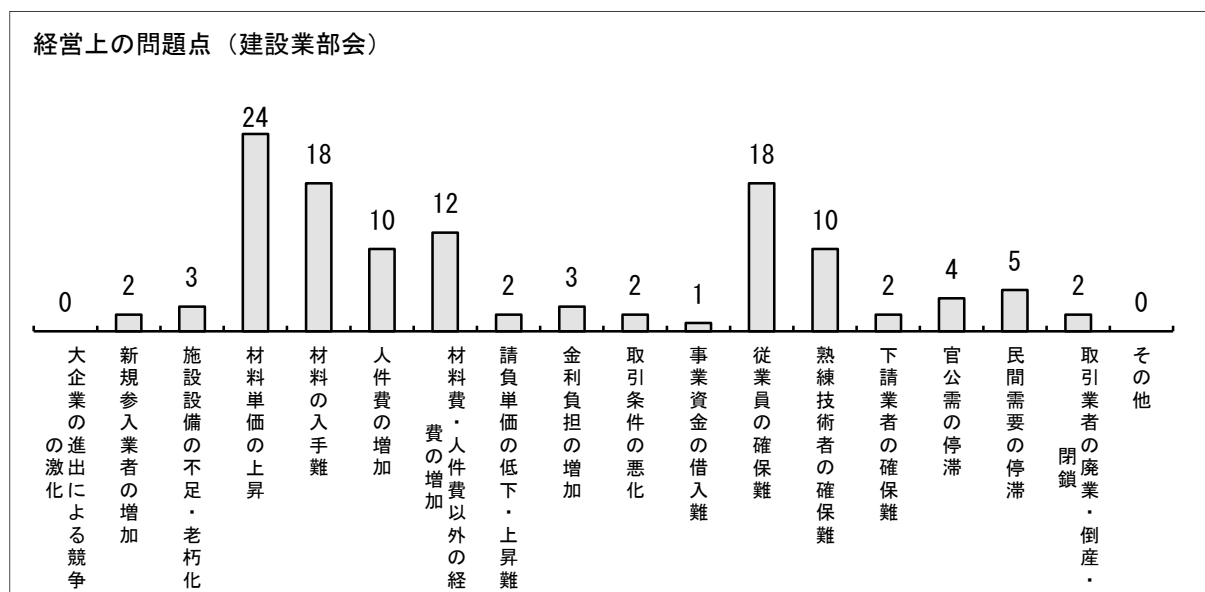


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲18.5（前年DI値▲19.1、来期見通し▲3.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、0.6ポイントの回復となりました。しかしながら、「材料の入手難」やそれに伴う「材料単価の上昇」が引き続き経営を圧迫しており、収益環境の改善には至っていない状況がうかがえます。また、慢性的な「従業員不足」も深刻な課題となっているほか、若年層の減少を背景とした後継者不足も見られ、人材確保や事業継続に対する不安の声が寄せられています。次期の業況見通しはDI値▲3.7と、大幅な回復が見込まれており、今後の受注動向に期待が寄せられます。一方で、経営上の問題点としては、前述の項目に加え、「人件費を含む経費の増加」を挙げる声が多く、コスト負担の高まりが引き続き経営課題となっています。

《業界の問題点等》

- ・中東情勢の影響をもろに受けている状態。材料の価格が急激に上がっている。（設備工事）

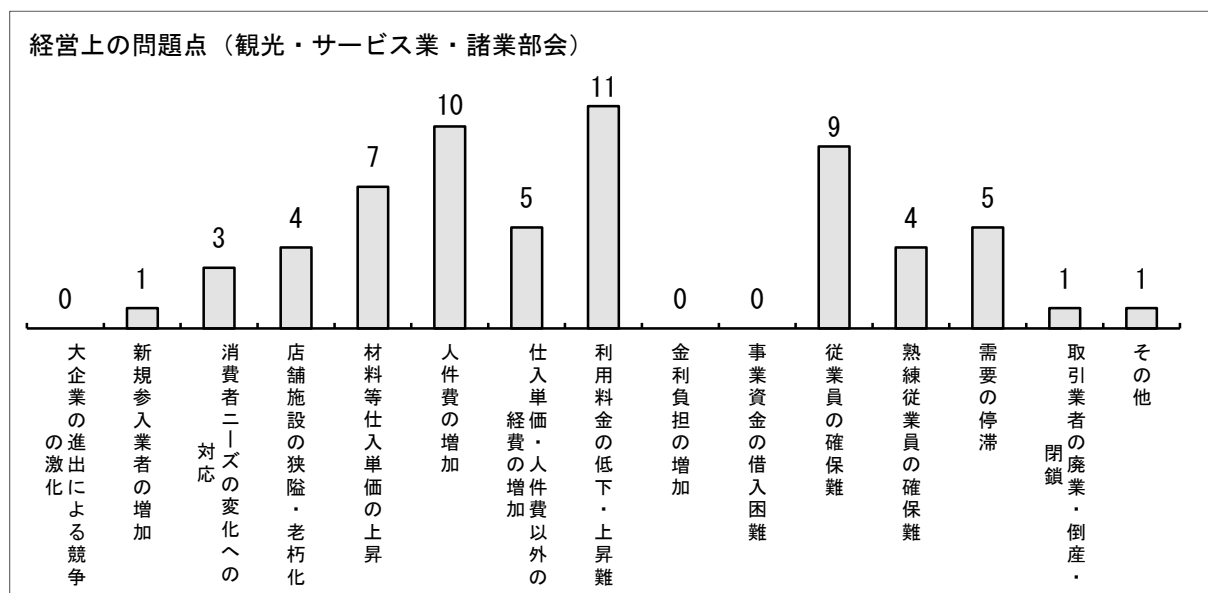


【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）13.3（前年DI値▲35.0、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、48.3ポイントの大幅な回復となりました。諸業全体では業況の「好転」を示す回答が多く、観光・サービス業においても「悪化」を示す回答が少なかったことから、全体としてプラスの値となりました。一方で、「利用料金の上昇難」や「人件費の増加」を課題として挙げる事業所が多く、コスト増加が続く中で十分な価格転嫁が進まず、収益を圧迫している状況がうかがえます。来期の業況見通しはDI値0.0と、今期からはやや悪化する見込みですが、大幅な悪化には至らない見通しです。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」や「仕入単価の上昇」を挙げる声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・人材難に対しどう対応するべきか模索中である。（飲食業）
- ・仕入単価の上昇が大きな打撃になっている。（飲食業）
- ・中東情勢変化による燃料代高騰と従業員確保。（旅客運送業）
- ・人材確保難。（スナック）
- ・人材不足。正規雇用、非正規雇用ともに負担が増えている。（建物サービス業）

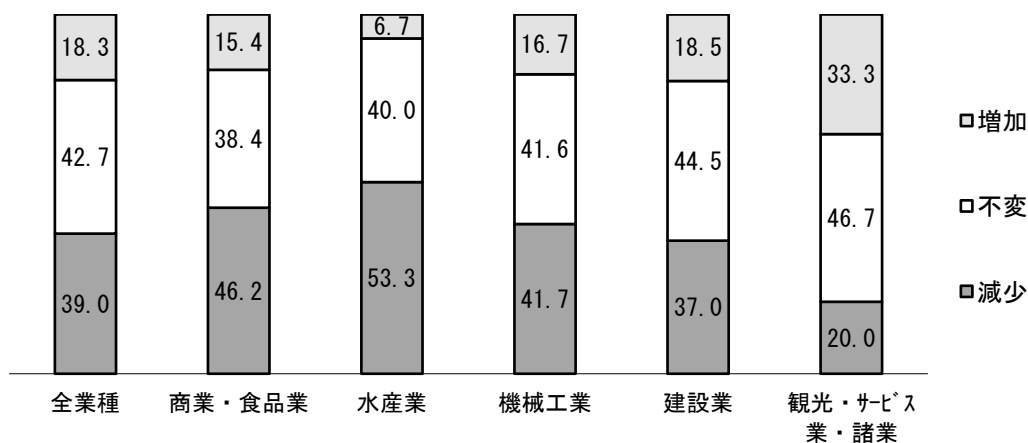


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

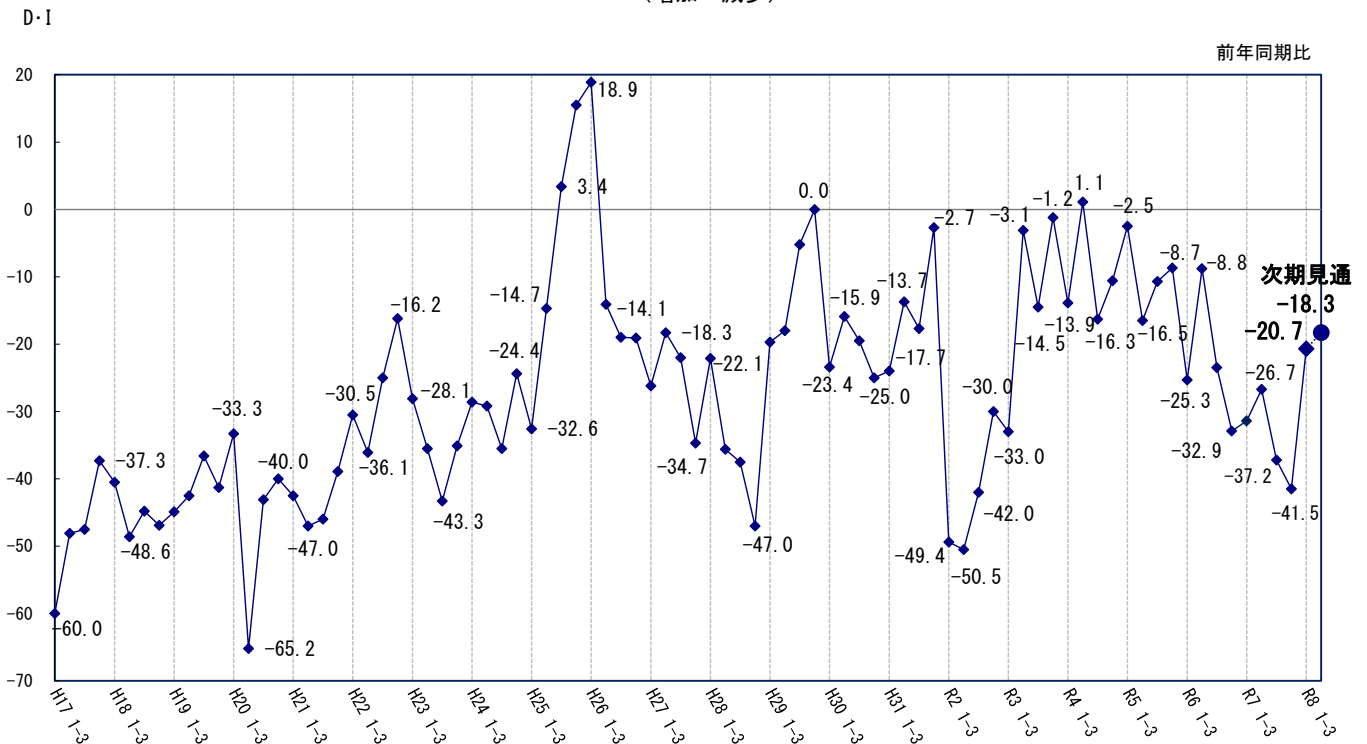
【前年同期比】（2025（令和7）年1月～3月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）

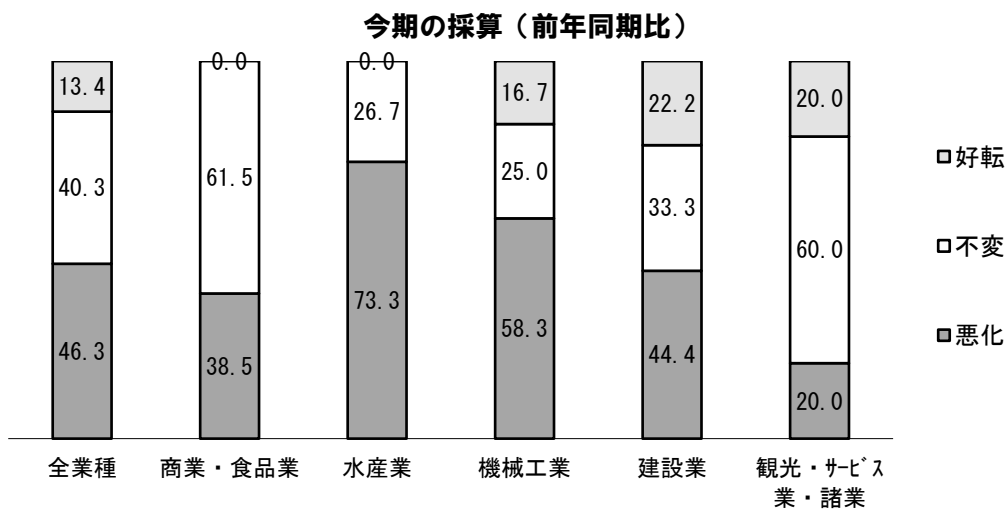


全業種平均でDI値▲20.7〔前年同期（令和7年1～3月期 ▲31.4）より10.7ポイント回復〕、機械工業が大幅な回復、建設業、建設業が回復。商業・食品業、が悪化、観光・サービス・諸業水産業が大幅な悪化。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲28.6→▲30.8〕、水産業〔前年▲25.0→▲46.7〕
 機械工業〔前年▲46.7→▲25.0〕、建設業〔前年▲28.6→▲18.5〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲30.0→▲13.3〕

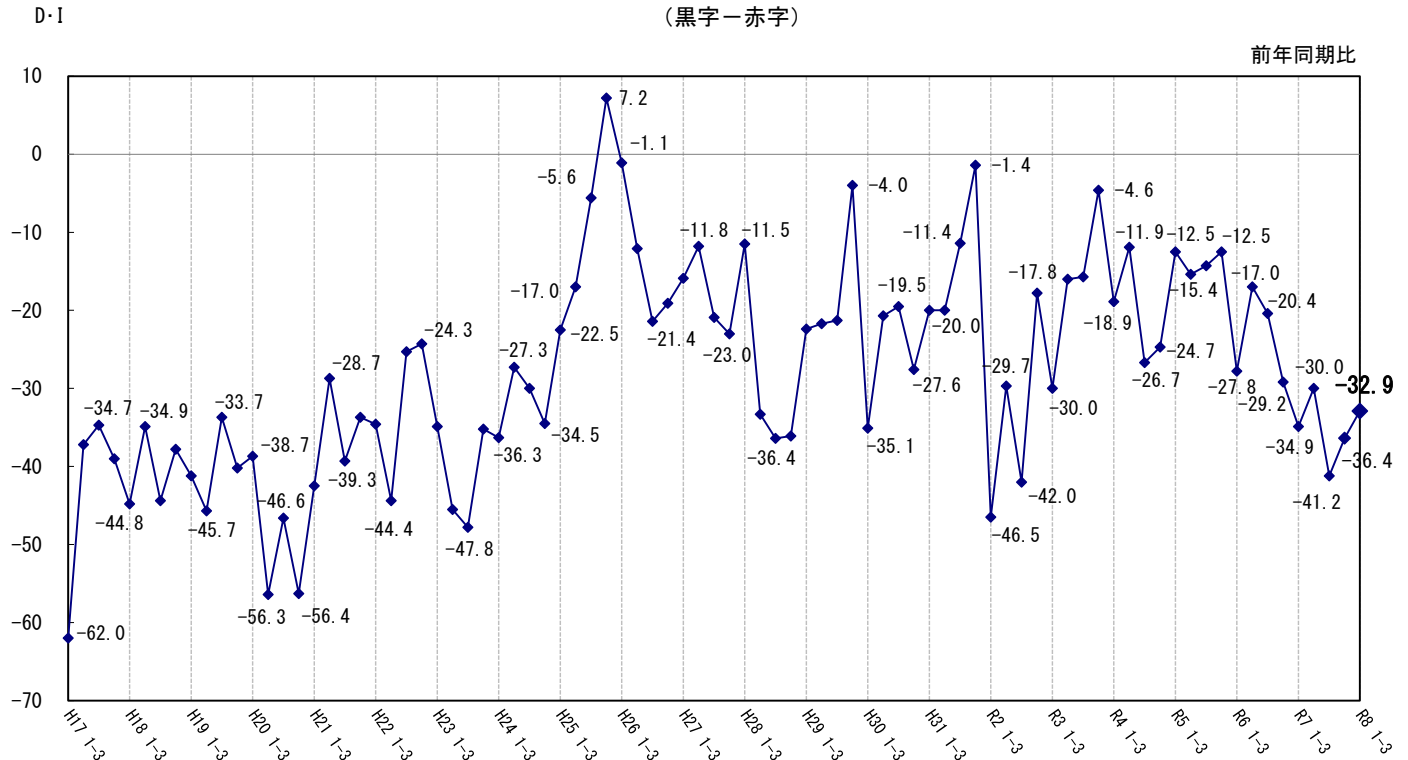
(2) 今期の採算

【前年同期比】（2025（令和7）年1月～3月期の水準と比較した今期の採算水準）



採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



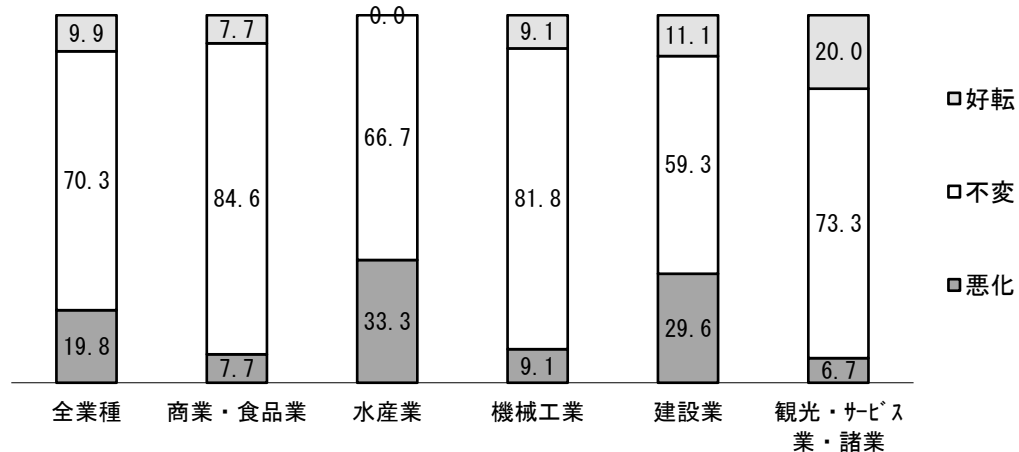
全業種平均でDI 値▲32.9〔前年同期（令和7年1～3月期 ▲34.9）より2.0ポイント回復〕
水産業、建設業が回復。商業・食品業が悪化。商業・食品業、建設業が大幅な悪化。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲57.2→▲38.5〕、水産業〔前年▲31.2→▲73.3〕
機械工業〔前年▲40.0→▲41.7〕、建設業〔前年▲19.1→▲22.2〕
観光・サービス業・諸業〔前年▲35.0→0.0〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（2025（令和7）年1月～3月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（前年同期比）

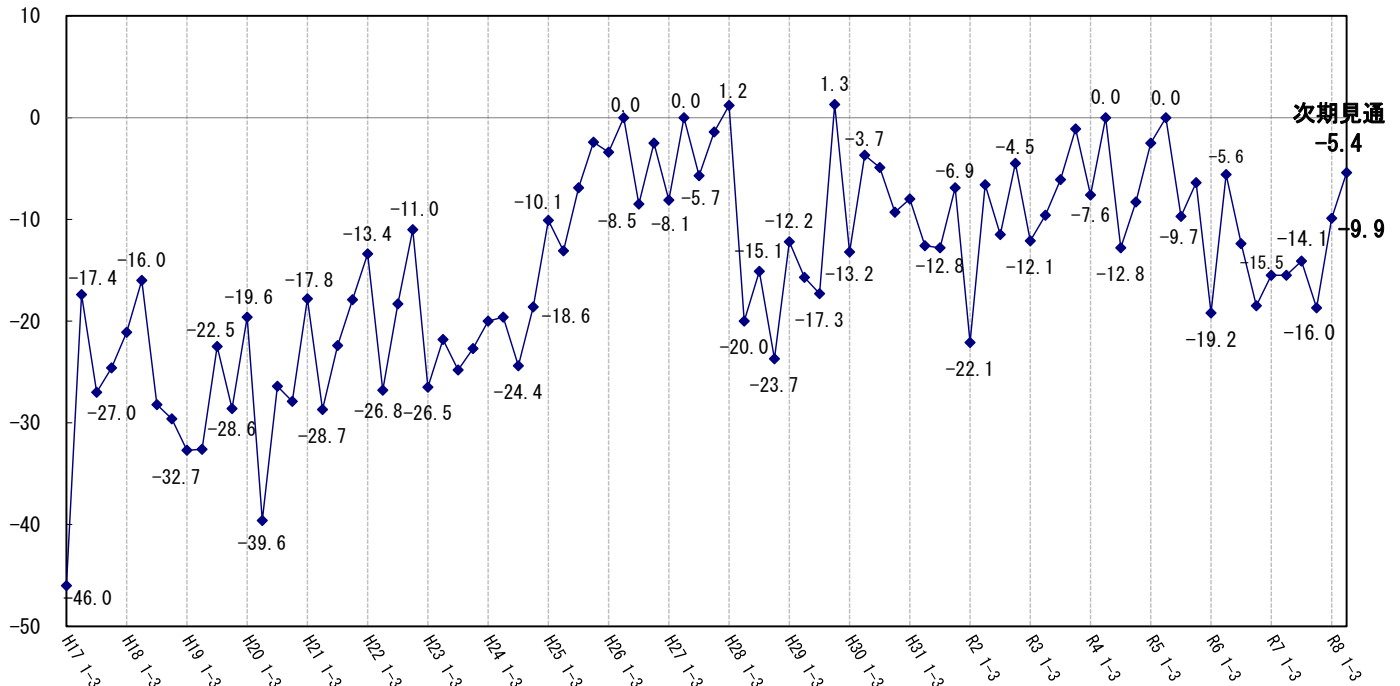


D・I

資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



全業種平均でDI値▲9.9〔前年同期（令和7年1～3月期 ▲15.5）より5.6ポイント回復〕

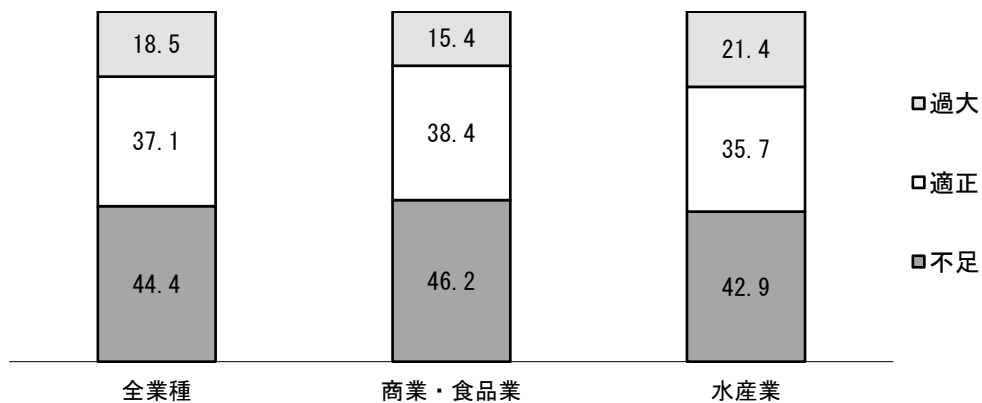
商業・食品業、機械工業、観光・サービス業・諸業が回復。水産業、建設業が悪化。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲28.6→0.0〕、水産業〔前年▲6.3→▲33.3〕
 機械工業〔前年▲30.8→0.0〕、建設業〔前年▲9.5→▲18.5〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲10.0→13.3〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2025（令和7）年1月～3月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



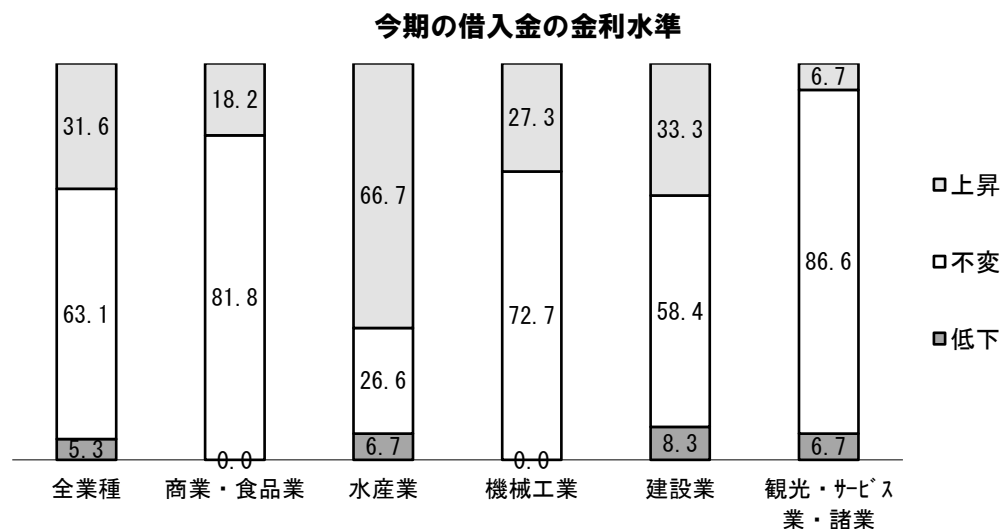
全業種平均でDI値▲25.9〔前年同期（令和7年1～3月期 ▲20.7）より5.2ポイント不足傾向〕

商業・食品業、水産業ともに不足傾向となった。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲14.3→▲30.9〕、水産業〔前年▲26.6→▲21.5〕

(5) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（2025（令和7）年1月～3月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

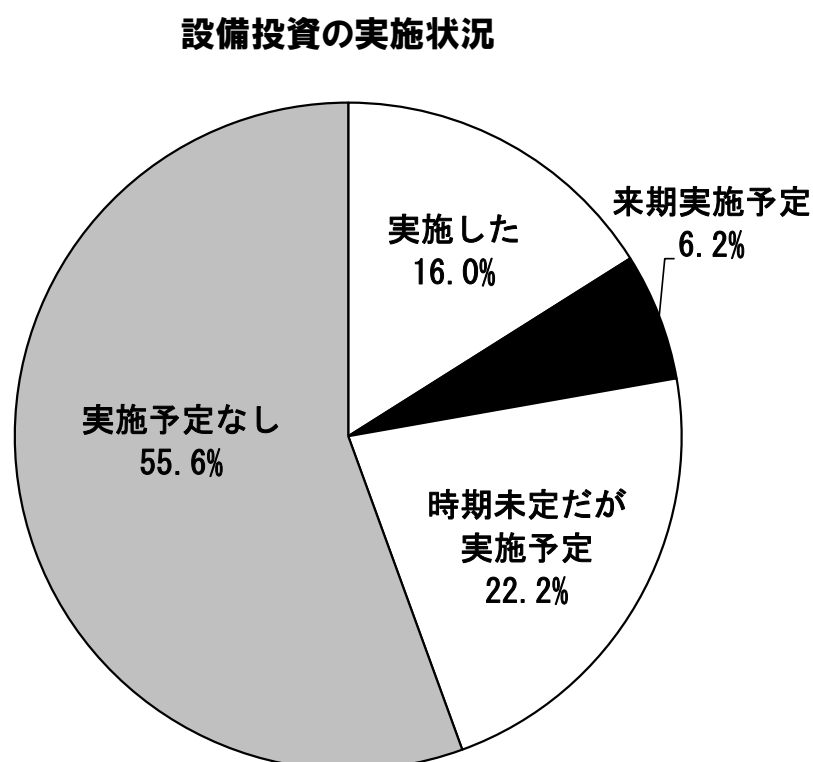


全業種平均で **26.3**。前年同期（令和7年1～3月期 24.7）よりも 1.6 ポイント上昇している。
商業・食品業、水産業、建設業、が上昇。機械工業、観光・サービス業・諸業は微減。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 9.1→18.2〕、水産業〔前年 37.5→60.0〕
機械工業 〔前年 36.4→27.3〕、建設業〔前年 31.6→25.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年 10.0→0.0〕

(6) 設備投資の実施状況

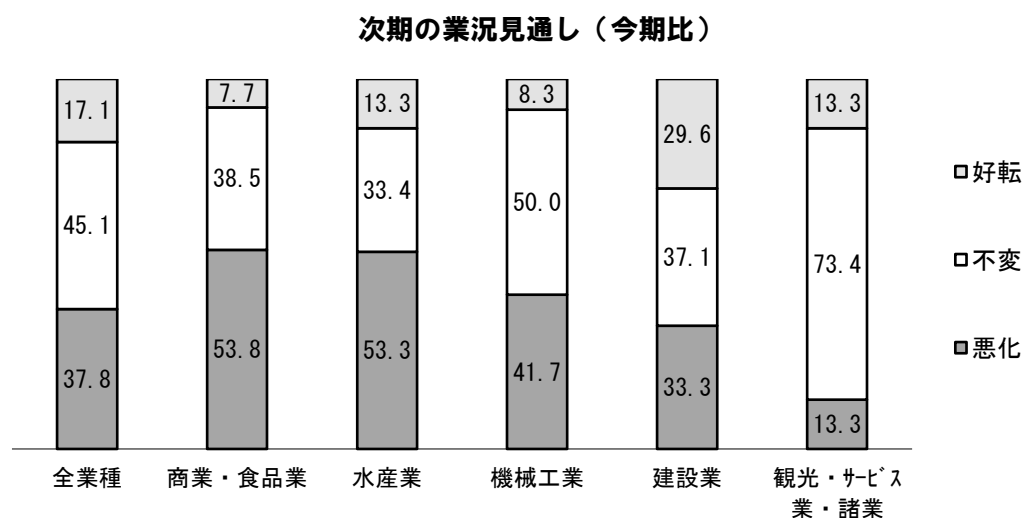
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

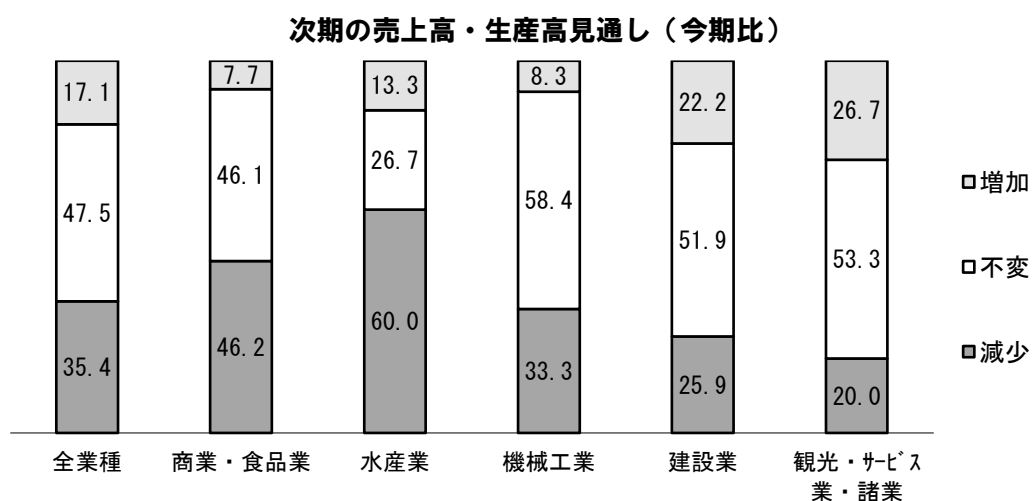
【今期比】（2026（令和8）年1月～3月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲20.7〔今期の業況（前年同期比▲24.4）より 3.7 ポイント回復の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

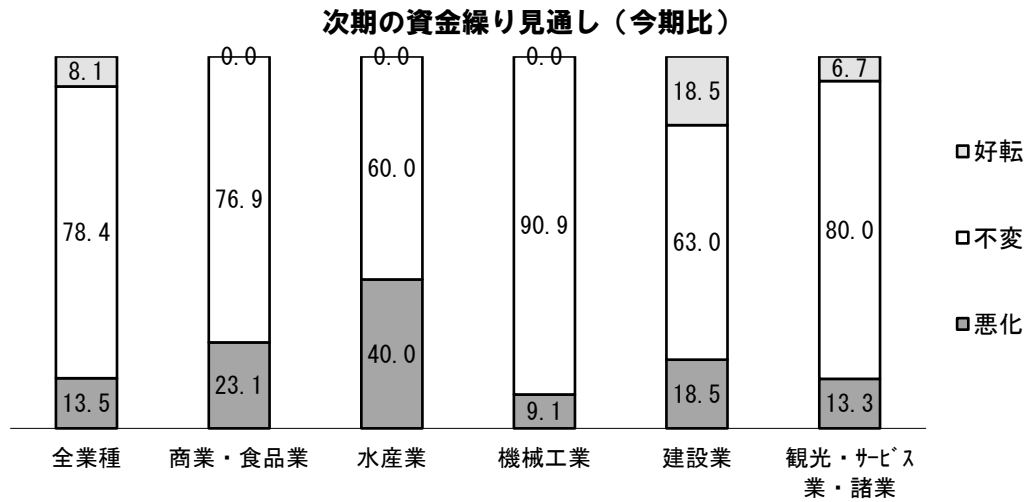
【今期比】（2026（令和8）年1月～3月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲18.3〔今期の売上高・生産高（前年同期比▲20.7）より 2.4 ポイント回復の見通し〕

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（2026（令和8）年1月～3月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲5.4〔今期の資金繰り（前年同期比▲9.9）より 4.5 ポイント回復の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス業 ・ 諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲24.4	▲23.1	▲66.7	▲33.3	▲18.5	13.4
	来期見通し	▲20.7	46.1	▲40.0	▲33.4	▲3.7	0.0
売上・生産 D・I	今期実績	▲20.7	▲30.8	▲46.7	▲25.0	▲18.5	13.3
	来期見通し	▲18.3	▲38.5	▲46.7	▲25.0	▲3.7	6.7
在 庫 D・I	今期実績	▲25.9	▲30.8	▲21.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採 算 D・I	今期実績	▲32.9	▲38.5	▲73.3	▲41.7	▲22.2	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲9.9	0.0	▲33.3	0.0	▲18.5	13.3
	来期見通し	▲5.4	▲23.1	▲40.0	▲9.1	0.0	▲6.6
借入金 金利水準 D・I	今期実績	26.3	18.2	60.0	27.3	25.0	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

IV. 中東情勢変化による経済活動への影響

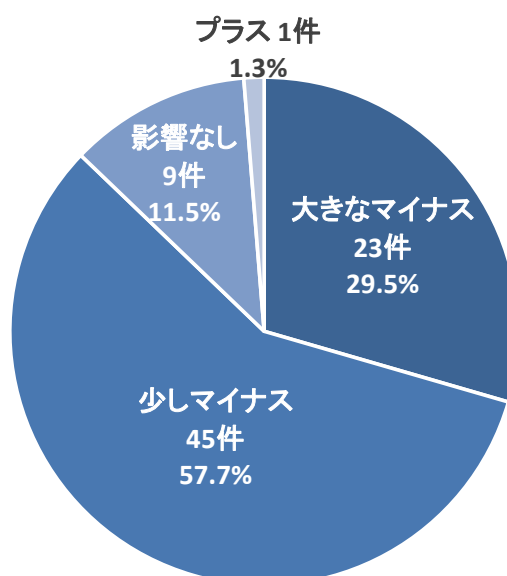
近年、中東地域では紛争や地政学的な緊張が続いており、国際経済にさまざまな影響を及ぼしています。特に原油価格や物流コストの変動は、エネルギー価格の上昇や原材料費の高騰を通じて、国内企業の経営環境にも影響を与えています。

今回は、中東情勢の変化が紋別市内事業所の経営活動にどのような影響を与えているかについて調査を行いました。

(1) 調査概要

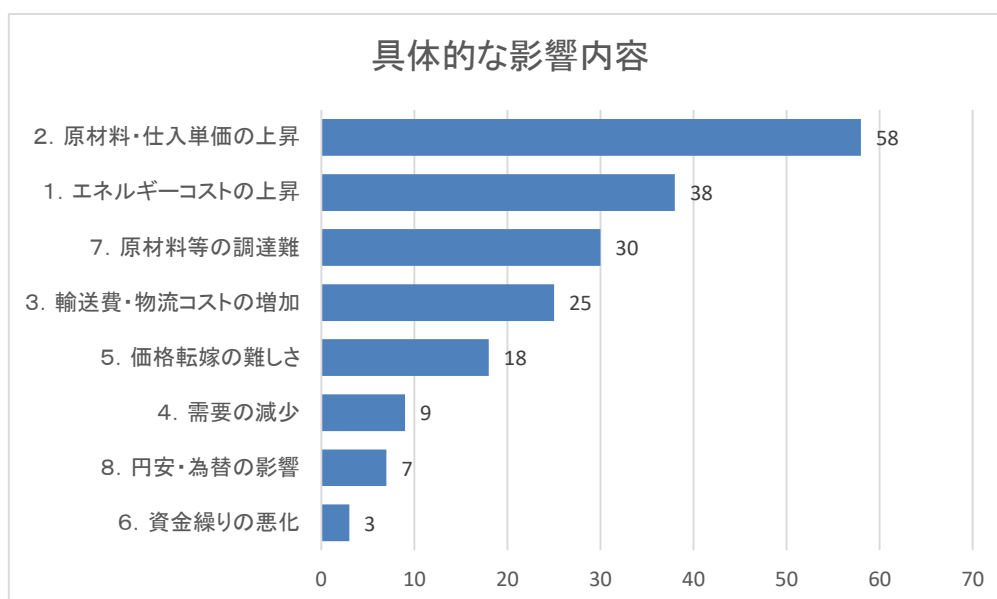
近年の中東情勢変化の影響について市内事業者を対象に調査を実施し、78 件の回答があった。

(2) 現在の影響度合い



中東情勢の変化について「大きなマイナス」及び「少しマイナス」と回答した事業所は全体の約87%を占め、多くの事業所が何らかのマイナス影響を受けていることがうかがえる。

(3) 具体的な影響内容（複数回答可）



具体的な影響として最も多かったのは「原材料・仕入単価の上昇」で58件、次いで「エネルギーコストの上昇」が38件、「原材料等の調達難」が30件となった。燃料価格の上昇が幅広い業種に影響を及ぼしているほか、仕入価格や為替変動を通じて経営コストの増加につながっていることがうかがえる。

(4) その他の意見

- ・石油関連製品の影響が出ると思うが、現状どの程度影響が出るか見通しがつかない。
(食料品製造業)
- ・物流に大きく影響あり。価格を上げないと原価割れするが、元値が高い以上、なかなか値上げが出来ない。(水産加工業)
- ・原油価格の高騰に伴い、原材料費や運送費が上昇しており、収益への圧迫を徐々に実感している。(水産加工業)
- ・中東情勢の影響が長期化した場合、資材の調達難や価格高騰が懸念され、経営状況の悪化につながる可能性がある。(建設業)